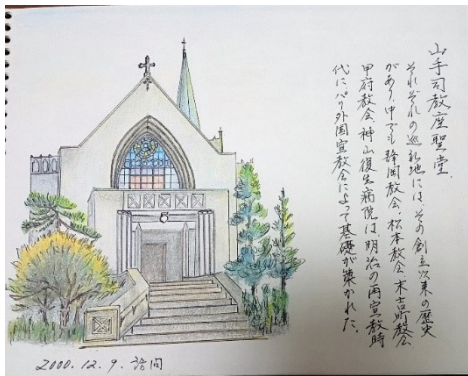


今月のメッセージ (2022年3月)



想 出

千代田教会信徒 井澤義郎

私は10代でカトリックに入門しました。何もわからないまま、ボーイスカウトリーダー、レジオマリエ、JOC、教会委員長など色々なことを経験させて頂きました。今思えば「よくも図々しく....」という気持ちもありますが、多くの方の助けをいただきながら続けてこられたことは全て神の計らいであったと感謝のほかありません。

神の計らいの中で私にとって最も大切な一つに「妻との出会い」があります。教会で出会いました。後でわかったことですが、奇遇にも二人は時、処を同じくして5つの秘跡（洗礼、ゆるし、初聖体、堅信そして婚姻！）にあずかっていたのです。故デヴィス神父様は「大変感慨深い。私の司祭生活においてこのような経験は初めてです。」と私たちの挙式で祝辞を述べてくださいました。この事もとても心に残るものとなっています。

さて、昨今の新型コロナ感染拡大による社会情勢の中、私に何ができるかといえば、残念ながらありません。せめて感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず皆さんと助け合っこの危機を乗り越りたいと切に願うところです。しかし何もできないながらもただ一つ祈ることだけはできます。過日千代田教会の敬老会の折、毛筆書の葉をいただきました。故ヘルマン・ホイベルス神父様（元上智大学学長）の『日本人への贈り物』の一部が転記されているものです。毎夕の祈りの時、妻とこの詩を読むようにしています。大変気持ちが楽になり感謝のうちに一日を終えます。ご存知の方も多いかと思いますが共に今一度この詩を味わってみたいと思います。



神は最後に一番良い仕事をのこして下さる。  
それは祈りだ。  
手は何もできないけれども最後まで合掌はできる。  
愛するすべての人の上に神の恵みをもとめるために。  
—「最上のわざ」より—

最近つくづく感じるがあります。「死は確実にやってくる。」ということです。それは何時になるのかわかりません。いつ神様が呼んで下さるのか全く分かりません。それだけにこのように年を重ねる（93歳）と、最後の時までの一日一日が大切に思われ無駄に時を過ごしてはいけないと強く思うのです。しかしそう思いながらも体は思うように動かず苛立ちすら感じます。それでも心にゆとりをもって、毎日感謝しながら妻と二人して過ごせればと思っています。これまでに趣味で描いた訪問教会のスケッチの極一部ですがご覧いただくと幸いです。

